

経営比較分析表（令和元年度決算）

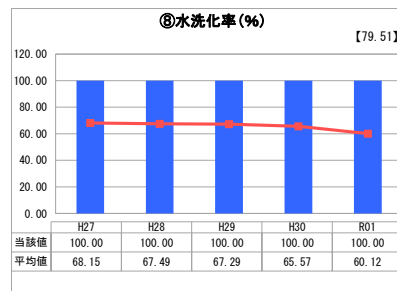
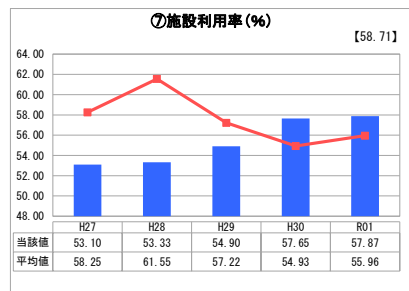
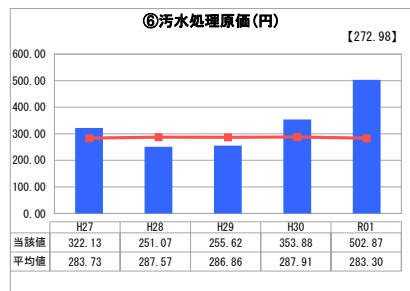
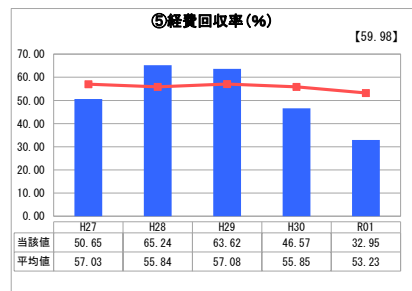
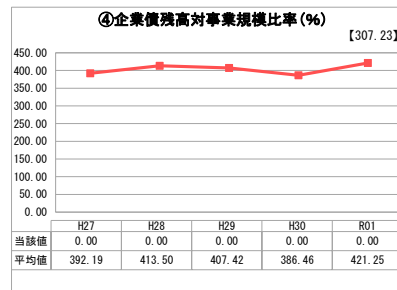
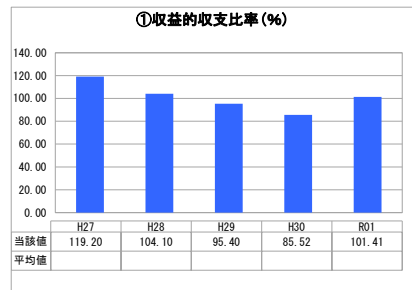
茨城県 小美玉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.65	100.00	3,190

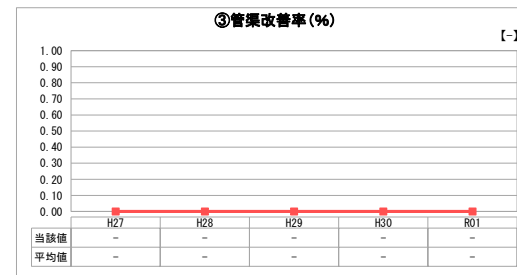
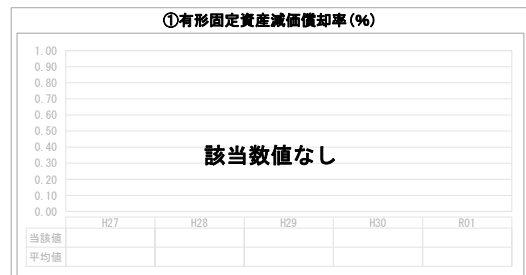
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
50,807	144.74	351.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
834	0.03	27,800.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%を上回っている。その大きな要因としては、一般会計繰入金が増加したためであるが、同繰入金に依存している状況である。このような中、今後も地方債償還金や維持管理費が増加していくことを踏まえると、さらなるコスト削減や適正な料金収入の確保に努める必要がある。

②累積欠損金比率は0%であるが、これは地方債償還元金を一般会計繰入金で賅っていることが要因として挙げられる。

③流動比率は、平均値を下回っているとともに、100%を下回っている。その大きな要因としては、支出における人件費の増加が挙げられるが、その反面、使用料収入も年々増加傾向にあることから、今後も引き続き適正な使用料収入の確保、及びさらなるコスト削減に努める必要がある。

④企業債残高対事業規模比率は、平均値を上回っている。その大きな要因としては、支出における人件費の増加が挙げられるが、その反面、年間有収水量も年々増加傾向にあることから、今後もさらなるコスト削減に努め改善を図る必要がある。

⑤経費回収率は、平均値を下回っている。季節による処理水量の大きな変動は見受けられず、年間を通じて効率的に利用されているものと思われる。

⑥汚水処理原価は、平均値を上回っているとともに、当市としては100%である。これは住民からの設置希望を受けた上で、市において設置していることによるものである。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率は、0%である。当事業は、平成20年度から開始されている事業であり、開始後11年を経過しているところである。このような中、近い将来には消耗機器の交換等、修繕費用の増加も見込まれることから、今後の点検等に取り組み必要がある。

全体総括

当事業は、浄化槽を市の負担にて個人の敷地に設置し、さらにその後の保守点検・清掃・法定検査等についても市の負担で行うなど、日頃から適正な維持管理に努めているところである。このような中、当浄化槽に不具合が生じた場合の修繕等についても市の負担にて行うことから、今後はこれらの維持管理費用の増加が懸念されているところである。したがって、今後も使用料収入等の適正な財源の確保のほか、維持管理費のコスト削減に努めることが非常に重要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。